

中学校 チャレンジ テスト

府教委が押しつけた「統一ルール」を 府教委自身が破るのか

1月31日付朝日新聞は、「今月実施された大阪府内の公立中学1・2年生を対象にした府統一テスト『チャレンジテスト』を巡り、府南部の3校で生徒が大量に欠席した。」で始まる記事を掲載しました。(左下写真)

説明不足が大量欠席の原因

協議は自分の都合が
いいときだけするの？

テスト時の体調不良が原因で
評定が下がる場合など「い
かんともしがたい」理由があ
れば、市町村教育委員会を通
じて府教委と「協議」できる
というルールもあります。

ところが昨年、府教委は
「教室に5分以上いた生徒は
協議の対象外」等として、ほ
んど協議に応じず「門前払

府教委の決めた ルールが問題です

本来、内申書の評定は、記
事にあるように「普段の授業
態度や中間・期末試験の結果
などを基に」つけるものです。

「たつた一回のチャレンジ
テストの結果で一年間の評定
が変更される」という「統一
ルール」こそ大量欠席の原因

欠席者の評定は「変
更しない」がルール

さらに心配なのが「協議」
の身です。

記事内の保護者の「まじめ
にやったほうが損をするなら、
不公平なテストになっしま
う」の声を口実に、府教委は、

向井正博教育長は「生徒
の学力の把握や評定(内申
点)の公平性を目的に実施
している」と説明。今回欠
席した生徒の内申評価につ
いては、市町村教育委員会
と個別に協議していくとし
ている。

廃止するしかない
チャレンジテスト

こんな制度自体に問題のあ
るチャレンジテストはすぐに
廃止すべきです。他府県にこ
んな制度は無いのですから。



の話 大量欠席を引き起こした理由
の一つは、学校側の説明不足だろ
う。体調管理の大切さを教え、テ
ストに臨むよう指導するべきだっ
た。特別な理由もないのに欠席した生徒
が内申点に影響しないとなれば、不
公平感は強まる。教育委員会は、教
員や生徒らが制度を理解できるよう
努め、再発防止を図る必要がある。



「戦争法」を廃止させよう。子どもたちや自衛隊員を戦場に送るな。